

直近の学術フォーラム・公開シンポジウム等の開催予定について

令和4年1月27日時点

開催日時	開催場所・形式	名称
1月29日（土） 9：30～16：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「スポーツ体育健康科学学術フォーラム『スポーツの新たなステージへ～調和のとれた共生社会の構築に向けて～』」
1月29日（土） 13：00～16：00	オンライン開催	公開シンポジウム 「動物科学の最前線：めくるめく多様性を科学する」
1月29日（土） 13：30～16：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「いま「戦争」を考える—社会学・社会福祉学の視座から」
1月29日（土） 10：30～17：15 1月30日（日） 9：30～17：05	オンライン開催	公開シンポジウム 「フューチャー・デザイン 2022」
1月31日（月） 16：00～18：00 2月1日（火） 20：00～22：00	オンライン開催	国際シンポジウム 「持続可能な社会のための科学と技術に関する国際会議 2021」～ネットゼロ・エミッション—達成に向けた学術の役割—～
2月3日（木） 13：00～17：30	オンライン開催	公開シンポジウム 「将来のエネルギー科学技術に向けたパワーレーザーと高エネルギー密度科学の役割と展望」
2月5日（土） 13：00～16：30	オンライン開催	学術フォーラム 「コロナ禍を共に生きる04 [新型コロナウイルス感染症の最前線-what is known and unknown#3] 「新型コロナウイルス感染症の予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応」
2月6日（日） 13：30～17：15	オンライン開催	学術フォーラム 「コロナ禍を共に生きる#5 感染症をめぐる国際政治のジレンマ 科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯」
2月18日（金） 18：30～19：40	調整中	サイエンスカフェ 「気づける不思議、見逃す仕組み～認知心理学から広告を読み解く～」

2月19日(土) 13:00~17:20	オンライン開催	公開シンポジウム 「子どもの毒性学: 子供の高次脳機能への化学物質曝露影響の把握に関わる、臨床、応用および基礎科学の現状と展望」
2月23日(水・祝) 14:00~17:25	オンライン開催	日本学術会議 in 福岡 「若手研究者が考える地方創生と学術の未来」
2月26日(土) 13:30~15:30	オンライン開催	公開シンポジウム 「生活に身近な One Health: 食品から検出される薬剤耐性菌の現状」
2月26日(土) 13:30~17:00	オンライン開催	公開シンポジウム 「生物多様性からみたワイルドサイエンス」

スポーツ体育健康科学 学術フォーラム

2022

兼 日本スポーツ体育健康科学学術連合第4回大会

1/29 土

スポーツの新たなステージへ ～調和のとれた共生社会の構築に向けて～

会場 | Zoomウェビナーにて開催 定員 | 500名

【無料・要事前申込】

主催：日本スポーツ体育健康科学学術連合（JAASPEHS）
日本学術会議健康・生活科学委員会 健康・スポーツ科学分科会
共催：日本体育・スポーツ・健康学会（JSPEHSS）

9:30 – 開会挨拶 阿江 通良（日本体育大学教授、JAASPEHS代表）
共催団体挨拶 菊 幸一（筑波大学教授、JSPEHSS会長）
9:45 – 全体趣旨説明 清水 紀宏（筑波大学教授、JAASPEHS運営委員長）

※ 本フォーラムの
開催趣旨は裏面
をご覧ください

第一部 10:00 - 12:30 コーディネーター 清水 紀宏 (JAASPEHS運営委員長・筑波大学教授)

スポーツ人材の知性・専門性とその質保障 ～スポーツ科学教育の高質化～

森岡 裕策（公益財団法人日本スポーツ協会専務理事）
土井 香苗（ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京ディレクター）
岡出 美則（日本体育大学スポーツ文化学部長）
原田 宗彦（大阪体育大学学長）

第二部 13:30 - 16:00 コーディネーター 来田 享子 (日本学術会議第二部連携会員・JAASPEHS副代表・中京大学教授)

多様性が調和する スポーツ文化の確立に向けた学術の貢献

小松 浩子（日本学術会議第二部会員・日本女性医学会理事・日本赤十字九州国際看護大学学長）
杉山 翔一（Field-R法律事務所弁護士）
神尾 陽子（日本学術会議第二部連携会員、お茶の水女子大学客員教授、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター客員研究員）
有森 裕子（公益財団法人スペシャルオリンピックス日本理事長）
16:00– 全体総括 宮地 元彦（日本学術会議第二部会員健康・生活科学委員会健康・スポーツ科学分科会委員長、早稲田大学教授）
16:20– 閉会挨拶

日本スポーツ体育健康科学学術連合

Japan Academic Alliance for Sport, Physical Education, and Health Sciences

＜お申し込みはこちら＞

<https://jaaspehs.com/info/566/>



スポーツの新たなステージへ

～調和のとれた共生社会の構築に向けて～

本フォーラムでは、主に東京2020オリンピック・パラリンピック大会の開催準備期間に進められてきたスポーツに関わる政策展開やスポーツ組織・団体における諸活動等によって見出されたスポーツ界をめぐる重要な課題を取り上げ、東京2020大会後の新たなスポーツのステージと調和のとれた共生社会の構築に向けた展望について考える。具体的には、1) 新たなスポーツのステージへと牽引するスポーツ人材の知性と専門性の在り方、そしてその養成と配置、資格制度の再構築、2) 多様な人々が共生する社会においてスポーツがその役割を効果的に発揮するための学術および組織的体制のあり方、について議論を深める。

第一部

スポーツ人材の知性・専門性とその質保障 ～スポーツ科学教育の高質化～

- 日本スポーツ協会公認スポーツ指導者資格制度のビジョン
森岡 裕策（公益財団法人日本スポーツ協会専務理事）
- スポーツ人材の資格制度の在り方－国家資格の可能性と必要性－
土井 香苗（ヒューマン・ライツ・ウォッチ東京ディレクター）
- 専門職人材養成課程での質保障、体育・スポーツ・健康科学のカリキュラム基準
岡出 美則（日本体育大学スポーツ文化学部長）
- 専門職業人としてのジョブ・マーケットの現状と開発可能性と必要性
原田 宗彦（大阪体育大学学長）

コーディネーター 清水 紀宏（筑波大学教授、JAASPEHS運営委員長）

第二部

多様性が調和するスポーツ文化の確立に向けた学術の貢献

- 学術の担い手としての大学組織におけるジェンダー・ダイバーシティ
－日本学術会議公開シンポジウムの成果と日本女性医学会の知見から－
小松 浩子（日本学術会議第二部会員・日本女性医学会理事・日本赤十字九州国際看護大学学長）
- スポーツにおける人権保障のための組織的体制に関する国際動向
杉山 翔一（Field-R法律事務所弁護士）
- スポーツ×メンタルヘルス×特別なニーズのある子どもたち
神尾 陽子（日本学術会議第二部連携会員、お茶の水女子大学客員教授、国立研究開発法人国立精神・神経医療研究センター客員研究員）
- スペシャルオリンピックスの取り組みから考える
有森 裕子（公益財団法人スペシャルオリンピックス日本 理事長）

コーディネーター 来田 享子（日本学術会議第二部連携会員、中京大学教授、JAASPEHS副代表）



公開シンポジウム

動物科学の最前線： めくるめく多様性を科学する

2022年1月29日(土) 13:00-16:00

Zoomオンライン開催 参加費無料 要事前登録

丸山 宗利(九州大学総合研究博物館准教授)

甲虫の多様性解明における最後の砦、ヒゲブトハネカクシ

石川 麻乃(東京大学大学院新領域創成科学研究科准教授)

ゲノムから探る！母なる海から離れたトゲウオたちのサバイバル術

木下 充代(総合研究大学院大学先導科学研究科准教授)

アゲハチョウの訪花行動における視覚の役割

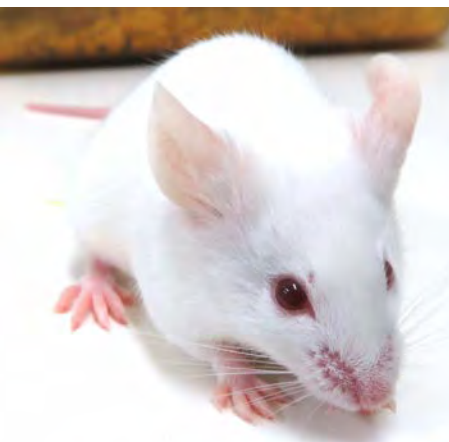
東原 和成(東京大学大学院農学生命科学研究科教授)

動物の行動・生理を制御するフェロモン:ヒトにはあるか？

倉谷 滋(理化学研究所倉谷形態進化研究室)

進化のなかで形はどう変わるのか

申し込みはこちら
(1月21日17時締切)



主催：日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 動物科学分科会
文部科学省科学研究費補助金 新学術領域研究「進化制約方向性」総括班
共催：ERATO深津共生進化機構プロジェクト 連絡先： M-ERATO-International-Seminar-ml@aist.go.jp

いま

「戦争を

考える

2022
1.29 [SAT]
13:30-16:30

社会学・社会福祉学の視座から

日本マス・コミュニケーション学会／立命館大学
福間良明 「戦争とメディア・大衆文化」

日本社会学会／一橋大学
佐藤文香 「戦争とジェンダー・性暴力」

数理社会学会／関西学院大学
渡邊勉 「戦争と階層・格差・不平等」

日本社会福祉学会／日本福祉大学
藤井渉 「戦争と障害者・動員・福祉」

社会学系コンソーシアム | 日本学術会議
第14回シンポジウム

オンライン Zoom ウェビナー

こちらより事前にご登録ください。▶
(定員：先着 500 名)



〈開会のごあいさつ〉

日本学術会議委員 東京大学 白波瀬佐和子
社会学系コンソーシアム理事長／立教大学 関礼子

〈討論者コメント〉

日本社会学会／東京大学名誉教授
上野千鶴子

関東社会学会／筑波大学
野上元

〈閉会のごあいさつ〉

日本学術会議委員 東京大学 有田伸

〈趣旨説明・オーガナイザー・司会〉

関西社会学会／明治学院大学

石原俊

コロナ禍のなかで、さまざまな社会的問題が露呈した。そうした問題が、近代以降の日本社会の軌跡、特にアジア太平洋戦争と関連づけて語られることも少なくない。

第二次世界大戦の終結から75年以上が経過したいま、戦争体験者の加齢が進み、「戦争を知らない世代」が大多数となった。「戦後80年」までの間に、アジア太平洋戦争での軍隊経験をもつ世代はもろろん、空襲や地上戦の経験をもつ世代が、日本社会からほとんどいなくなると思われる。

一方で、21世紀に入り、「対テロ戦争」の拡大、民間軍事会社の台頭、インターネット・人工知能技術に支えられた無人兵器の拡大など、戦争・軍事のあり方も大きく変容した。そして依然として、戦争は世界各地で繰り返されている。

だが、現在の日本社会では全体として、戦争・軍事に関する「感度」が減衰した状態がみられる。これからのグローバル社会における日本のあり方を考えるとき、社会の構成員の戦争・軍事に対する「感度」を、これ以上鈍化させてはならないだろう。

本シンポジウムでは、理論研究・質的研究・計量研究・国際比較研究で第一線を担う研究者からの報告をもとに、戦争・軍事について社会的・社会福祉学的観点から考える機会としたい。

FUTURE DESIGN 2022

第5回

持続可能な社会のしくみをフューチャー・デザインする

基調講演 Kate Raworth

"From Growth to Thriving: humanity's 21st century journey"

ケイト・ラーワースさんは、経済学を21世紀にふさわしいものにするに力を注ぐ反逆の経済学者です。彼女の著書『ドーナツ経済学が世界を救う：人類と地球のためのパラダイムシフト』は20カ国語に翻訳された国際的ベストセラーで、2017年のフィナンシャル・タイムズ&マッキンゼーの年間最優秀ビジネス書賞など数多くの賞を受賞しています。Doughnut Economics Action Labの共同設立者であり、都市、ビジネス、コミュニティ、政府、教育者と協力し、Doughnut Economicsを急進的なアイデアから変革的なアクションに変えています。オックスフォード大学の環境変革研究所で教鞭をとり、アムステルダム応用科学大学の実践教授を務めています。

パネルディスカッション

2021年11月、6人の有識者が2チームに分かれ、仮想将来人になりきって2050年の日本の姿を描く討論をしました。この6人にご意見頂き、この討論結果を振り返ります。そして、フューチャー・デザインの可能性について議論します。

チーム A

首都直下型地震が発生して十数年経った2050年の日本が、明るい未来に向かってどう進みつつあるのかを、マクロ経済学的な視点と国民一人一人のミクロな視点両方から描きました。



小林 慶一郎
慶應義塾大学経済学部教授
東京財団政策研究所研究主幹



永野 あきほ
ミシガン大学公共政策大学院
(行政官長期在外研究員)



神津多可思
日本証券アナリスト協会
専務理事

チーム B

2050年の日本人が、経済的な地位の低下を直視しつつ、成熟した民主主義国として外国人を受け入れ、彼らと協同してイノベーションを起こしたり地域を維持している姿を描きました。



廣光 俊昭
経済学研究者
(在米国日本国大使館公使)



松本 紹主
現代仏教信 世界経済フォーラム
(ダボス会議) Young Global Leader



佐藤 光光
一橋大学政策大学院経済学研究
科教授 東京財団政策研究所



Zoom開催

1月29日 10:30~
1月30日 9:30~

「ウィズコロナ/ポストコロナの
フューチャー・デザイン」

フューチャー・デザインは、持続可能な自然と社会を将来世代に引き継ぐために、新たな仕組みをデザインし、現在の社会の仕組みである市場や民主制を何らかの形で制御しようとする新たな分野です。たとえば、将来世代の視点に立ち、将来世代の利益を代表する役割を与えられた人々(仮想将来世代)は、通常の現代世代の人々とは異なる思考をして、将来世代の利益を擁護することが実験や実践で分かってきました。本ワークショップでは、フューチャー・デザインをめぐる様々な実践や研究について議論いたします。研究者だけでなく、自治体などの実務家も含め、意見交換を行います。奮ってご参加ください。

|主催|



高知工科大学
KOCHI UNIVERSITY OF TECHNOLOGY



|共催|

総合地球環境学研究所 一般社団法人フューチャー・デザイン
一般社団法人しあわせ推進会議

|後援|

公益社団法人経済同友会 土佐経済同友会

参加申込は
こちらから



<https://www.ri-futuredesign.com/>
Tel. 088-821-7145

将来のエネルギー科学技術に向けた パワーレーザーと 高エネルギー密度科学の役割と展望

2022年
2月3日[木]
13:00-17:30

日本学術会議講堂とオンラインのハイブリッド

●定員：日本学術会議講堂 150人※新型コロナウイルス感染症拡大防止のため変更の可能性があります
【アクセス】東京メトロ千代田線「乃木坂」駅 5出口 東京都港区六本木7-22-34

オンライン 300人

●参加費：無料 どなたでも参加いただけます ※事前に参加申し込みが必要です



➡参加申し込みはこちら

<https://www.optronics.co.jp/symposium/powerlaser/>

PROGRAM

13:00 開会

前半司会 犬竹 正明 | 日本学術会議連携会員／東北大学名誉教授
開会の辞 近藤 駿介 | 日本学術会議連携会員／原子力発電環境整備機構 理事長
挨拶 吉村 忍 | 日本学術会議 第三部 部長
高西 一光 | IFEフォーラム 座長
上坂 充 | 内閣府原子力委員会 委員長

13:15 講演Ⅰ

フォトリック結晶面発光レーザーの進展と展望
—究極の半導体パワーレーザーの実現を目指して—

野田 進 | 日本学術会議連携会員／京都大学大学院工学研究科 教授

エネルギー科学における
レーザープロセッシングの課題と展望

小林 洋平 | 東京大学物性研究所 教授

パワーレーザー・高エネルギー密度科学の課題と展望

児玉 了祐 | 日本学術会議連携会員／大阪大学レーザー科学研究所 所長

14:45 後半司会 三間 冨興 | 日本学術会議連携会員／大阪大学名誉教授

講演Ⅱ

カーボンニュートラル実現に向けた
熱エネルギー利用の現状と展望

藤岡 恵子 | 日本学術会議特任連携会員／
株式会社ファンクショナル・フルイッド 代表取締役社長

エネルギー科学技術における
レーザー駆動量子ビームの利用

河内 哲哉 | 国立研究開発法人 量子科学技術研究開発機構 関西光科学研究所 所長

エネルギー最適化に向けた東芝の取り組み

落合 誠 | 東芝エネルギーシステムズ株式会社
エネルギーシステム技術開発センター ゼネラルマネージャー

16:00 総合討論

将来のエネルギー科学技術に向けた
パワーレーザー技術と
高エネルギー密度科学の役割と展望

●コーディネーター

笹尾 真実子 | 日本学術会議連携会員／東北大学名誉教授

●コメント

カーボンニュートラル実現に向けたレーザー技術の応用

久間 和生 | レーザー学会 会長／
国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 理事長

●パネリスト

岩田 夏弥 | 大阪大学高等共創研究院 准教授／
落合 誠／河内 哲哉／久間 和生／児玉 了祐／
小林 洋平／野田 進／藤岡 恵子

17:25 閉会の辞 疇地 宏 | 日本学術会議連携会員／大阪大学名誉教授

17:30 閉会

●お問い合わせ

大阪大学レーザー科学研究所内 事務局

大阪府吹田市山田丘2-6

TEL : 06-6879-7987

E-mail : scj22@ile.osaka-u.ac.jp



➡公開シンポジウムの詳細はこちら

【主催】日本学術会議総合工学委員会 エネルギーと科学技術に関する分科会／
IFEフォーラム

【共催】大阪大学レーザー科学研究所／量子科学技術研究開発機構関西光科学研究所

【協賛】一般社団法人レーザー学会／一般社団法人プラズマ・核融合学会／一般社団法人日本物理学会／日本加速器学会／
光エレクトロニクスフォーラム／パワーレーザーフォーラム／日本フォトリクス協議会／光科学アライアンス

【協力】株式会社オプトロニクス社



新型コロナウイルス感染症の 予防と治療 Up-to-date そして変異株への対応

2022年2月5日(土) 13:00~16:30

オンライン開催



本学術フォーラムでは、Covid-19を克服するための2本柱である新型コロナワクチンと治療薬に焦点を当て、最新情報を分かりやすく解説いたします。また、最近、厚生労働省が特例として薬局での販売を認可した抗原検査キットをはじめCovid-19の検査法の最新情報についても取り上げます。

どなたでもYouTubeで視聴できます。

詳細は日本学術会議ホームページのイベントサイトにアクセスしてください。事前質問も受け付けております。

参加フォーム: <https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0067.html>



司会: 武田真莉子(日本学術会議連携会員)

開会の挨拶: 望月真弓(日本学術会議副会長) 門田守人(日本医学会連合会長)

趣旨説明: 高倉喜信(日本学術会議連携会員)

「新型コロナウイルス感染症の予防と治療の実際」

長尾美紀(京都大学医学研究科教授)

「新型コロナウイルス感染症: 米国と世界の状況、変異ウイルスと今後の展望」

峰 宗太郎(米国立研究機関博士研究員)

「新型コロナ検査キットとの付き合い方」

横井正之(バスケル薬局)

「新型コロナワクチンのUp-to-date」

宮坂昌之(大阪大学免疫学フロンティア研究センター招へい教授)

「新型コロナ治療薬のUp-to-date」

前仲勝実(北海道大学薬学研究院教授)

座長: 伊藤美千穂(日本学術会議連携会員) 磯 博康(日本学術会議第二部会員)

閉会の挨拶: 佐々木茂貴(日本薬学会会頭)



感染症をめぐる 国際政治のジレンマ

科学的なアジェンダと政治的なアジェンダの交錯

新型コロナウイルス・パンデミックのような非伝統的な脅威に対し、国家を超える共通政府を持たない国際社会はいかに立ち向かうべきか。政治学の視点から、感染症の脅威から人類を守るための政治や行政の役割について考察する。

「COVAXファシリティとワクチン外交」

勝間靖（早稲田大学大学院アジア太平洋研究科教授）

「COVID-19ワクチンをめぐる公衆衛生と知的財産権保護の相克」

古城佳子（青山学院大学国際政治経済学部教授）

「パンデミックの比較政治学」

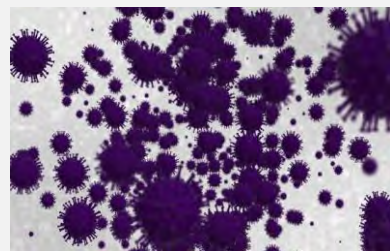
竹中千春（立教大学法学部教授）

「コロナ禍と欧州のジレンマ」

羽場久美子（神奈川大学国際日本学部教授）

「新型コロナウイルス感染症への日本の対応と課題」

城山英明（東京大学公共政策大学院教授）



コーディネーター・司会 山田高敬（名古屋大学大学院環境学研究科教授）

2022年2月6日（日） 13:30～17:15

オンライン開催

どなたでも参加できます。

下記のURLまたは右のQRコードからお申し込みください。

<https://form.cao.go.jp/scj/opinion-0003.html>



問い合わせ先

日本学術会議事務局企画課学術フォーラム担当

電話：03-3403-6295

内容に関する問い合わせ先

山田高敬(名古屋大学) yamada.takahiro@k.mbox.nagoya-u.ac.jp

主催 日本学術会議

サイエンスカフェ

気づける不思議、見逃す仕組み～認知心理学から広告を読み解く～

1. 日 時 : 令和4年(2022年)2月18日(金) 18:30～19:40
2. 場 所 : 三省堂書店札幌店ブックス&カフェ UCC (予定)
※状況によりオンライン(又は、ハイブリッド)開催の可能性あり
3. 関係団体: 三省堂書店札幌店、北海道大学 CoSTEP、日本学術会議北海道地区会議
4. 内 容 :

【出演者】

カフェ講師: 河原 純一郎 (日本学術会議連携会員・北海道大学大学院文学研究院教授)
聞き手: 奥本 素子 (北海道大学高等教育推進機構科学技術コミュニケーション教育研究部門准教授)

【開催概要】

自分ではまったく覚えていないのに、あとから「伝えたよね？」っていわれること
ありませんか？それはあなたのせいではなく、もしかしたら伝え方のせいで見逃
していたのかもしれません。

認知心理学者の河原純一郎さん(北海道大学大学院文学研究院教授)は、人間が情
報を認知する仕組みを、私たちに身近な広告をテーマに、実験し、そのメカニズム
を明らかにしています。私たちが情報に気が付く要因には、その情報自体が目立つ
ために目につきやすい「モノの要因」、私たち自身が情報に注意している場合に気
が付きやすい「意図の要因」、個人的な価値に紐づけられたものに気が付きやすい
「過去の要因」の三つの要因があると整理されています。

本サイエンスカフェでは、その要因を具体的な事例や河原さんが行っている実験
事例を通して詳しく紹介していきます。身近な広告を通して、伝えられているのに
伝わらないことや、伝えられている情報以上の意味を見出す私たちの認知の不思議
に迫っていきます。

さてこのチラシに気が付いた皆さんは、どんな理由で気が付きましたか？

5. 参加費: 500 円 (コーヒー・茶菓子代として)
6. 参加予定人数: 25 名程度
7. 連絡担当者:

氏名(所属・役職) 今野 日出男 (北海道大学研究推進部研究振興企画課総務担当)

電話番号 011-706-2155

メールアドレス suishin@general.hokudai.ac.jp

子どもの毒性学

子供の高次脳機能への化学物質曝露影響の把握に関わる
臨床、応用および基礎科学の現状と展望

主催：日本学術会議・毒性学分科会

(薬学委員会・食料科学委員会・基礎医学委員会合同)

共催：日本毒性学会

場所：オンライン

参加：無料



QRをクリックすると
登録サイトに飛びます。

日時：令和4年2月19日(土)

13:00~17:20

13:00 開会挨拶

菅野 純 (日本学術会議連携会員・国立医薬品食品衛生研究所客員研究員・名誉職員)

講演 座長 姫野 誠一郎 (日本学術会議連携会員・昭和大学薬学部客員教授)

13:10 「出生体重と子どもの神経発達の関係」

市川 剛 (獨協医科大学・医学部 講師)

13:40 「自閉スペクトラム症の環境要因」

松崎 秀夫 (福井大学 子どものこころの発達研究センター 教授)

14:10 「自閉症と統合失調症の疫学」

土屋 賢治 (浜松医科大学・子どものこころの発達研究センター 特任教授)

休憩 14:40~14:50

14:50 「ゲノム解析に基づいたASD/SCZの研究」

尾崎 紀夫 (日本学術会議会員・第二部幹事 名古屋大学大学院・医学系研究科 教授)

15:20 「アセフェート経口投与によるマウスの情動認知行動影響」

種村 健太郎 (東北大学大学院・農学研究科 教授)

15:50 「AUTS2遺伝子と脳神経発達、そして精神疾患」

星野 幹雄 (国立精神・神経医療研究センター 神経研究所・病態生化学研究部 部長)

休憩 16:20~16:30

16:30~17:10

パネルディスカッション 座長：菅野 純

パネリスト：

各講演者

関野 祐子 (日本学術会議連携会員・東京大学大学院薬学系研究科ヒト細胞創薬学寄付講座特任教授)

姫野 誠一郎

17:10~17:20 閉会の辞

平井みどり (日本学術会議連携会員・神戸大学名誉教授)

日本学術会議 in 福岡 学術講演会「若手研究者が考える地方創生と学術の未来」

主 催：日本学術会議 共 催：九州大学

後 援：福岡県、福岡市、公益財団法人日本学術協力財団

日 時：令和4年2月23日（水・祝）14：00～17：25

場 所：オンライン開催の予定

開催趣旨：地方創生には様々なステークホルダーが関わってくるが、その推進に向けて、それぞれが問題を抱えているのが現状である。ここでは、中央政府、地域行政、産業界、地域における高等教育機関、若手研究者、それぞれの関わり方・役割について、主に若手研究者の視点から課題を掘り起こし、これからの地方創生のあるべき姿に迫る。

プログラム 総合司会：岸村 顕広（日本学術会議連携会員、九州大学准教授・総長補佐）

14:00～14:10 開会挨拶 梶田 隆章（日本学術会議会長）

石橋 達朗（九州大学総長）

14:10～14:15 総合司会による趣旨説明

14:15～14:35 講演1「社会課題解決に貢献する大学への期待、政策立案の立場から」

斉藤 卓也（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）

14:35～14:55 講演2「地域におけるイノベーション政策の現状と課題—大学と地域の関係性に注目して」

標葉 隆馬（日本学術会議若手アカデミー特任連携会員、大阪大学准教授）

14:55～15:15 講演3「地方国立大学における産学・地域連携の「中のひと」～社会と大学の界面観察」

中武 貞文（鹿児島大学准教授）

15:15～15:25 休 憩

15:25～15:45 講演4「地域文化アイデンティティの再構築と実践

～誇りと尊厳ある生き方(Well-being)を取り戻すために～」

井上 果子（宮崎大学准教授）

15:45～16:05 講演5「若手研究者が地域に出ていくために ～意義・葛藤・評価から考える～」

小野 悠（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学准教授）

16:05～16:15 日本学術会議地域活性化に向けた社会連携分科会からの報告

16:15～16:25 休 憩

16:25～17:15 総合討論・パネルディスカッション

【パネリスト】

谷口 功（独立行政法人国立高等専門学校機構理事長）

斉藤 卓也（文部科学省科学技術・学術政策局人材政策課長）

標葉 隆馬（日本学術会議若手アカデミー特任連携会員、大阪大学准教授）

中武 貞文（鹿児島大学准教授）

井上 果子（宮崎大学准教授）

小野 悠（日本学術会議連携会員、豊橋技術科学大学准教授）

17:15～17:20 シンポジウム総括 安田 仁奈（日本学術会議連携会員、宮崎大学准教授）

17:20～17:25 閉会挨拶 玉田 薫（日本学術会議九州・沖縄地区会議代表幹事、九州大学副学長・主幹教授）



生活に身近なOne Health 食品から検出される **薬剤耐性菌**

の現状



無料・参加申し込みはこちら
(クリックすると登録ページに飛びます)

日時:令和4年2月26日(土)

13:30-15:30

場所:オンライン開催

13:30 開会

高井 伸二 (日本学術会議第二部会員、北里大学名誉教授)

13:35 オープニング

田村 豊 (元日本学術会議連携会員、酪農学園大学名誉教授)

13:55 食肉

下島 優香子 (相模女子大学栄養科学部准教授)

14:15 魚

廣野 育生 (東京海洋大学学術研究院海洋生物資源学部門教授)

14:35 野菜・果物

白井 優 (酪農学園大学獣医学類准教授)

14:55 総合討論

関崎 勉 (日本学術会議連携会員、東京大学名誉教授)

後藤 貴文 (日本学術会議連携会員、鹿児島大学教授)

15:25 閉会

眞鍋 昇 (日本学術会議第二部会員、大阪国際大学学長補佐教授)

シンポジウム事務局:scj-tox@vetmed.hokudai.ac.jp

シンポジウム案内: <https://www.scj.go.jp/ja/event/2022/318-s-0226.html>

分科会WEBサイト: <https://www.scj-vetfood.com/>

公開シンポジウム 「生物多様性からみたワイルドサイエンス」



吉川 泰弘氏

(岡山理科大学獣医学部長)



緒方 博之氏

(京都大学化学研究所教授)



安田 仁奈氏

(日本学術会議連携会員、
宮崎大学農学部准教授)



村山 美穂氏

(日本学術会議第二部会員、
京都大学
野生動物研究センター教授)

日時 2022年 2月 26日(土) 13:30 ~ 17:00
場所 オンライン開催

URL (事前参加申込み 2月23日(水) 正午〆切)

[https://docs.google.com/forms/d/](https://docs.google.com/forms/d/11MyY54K0klUuVAeC-zkgTKNNkGxmaebufpzzDvL3sqE/edit?hl=JA)

[11MyY54K0klUuVAeC-zkgTKNNkGxmaebufpzzDvL3sqE/edit?hl=JA](https://docs.google.com/forms/d/11MyY54K0klUuVAeC-zkgTKNNkGxmaebufpzzDvL3sqE/edit?hl=JA)



シンポジウム「生物多様性からみたワイルドライフサイエンス」実行委員会
連絡先: ws-contact@googlegroups.com (*を@に変更)

主催: 日本学術会議 基礎生物学委員会・統合生物学委員会合同 ワイルドライフサイエンス分科会

共催: 総合地球環境学研究所、京大大学生態学研究センター、京都大学野生動物研究センター、新学術「共創言語進化」

科研費
KAKENHI

